



不登校児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷

URL <https://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

E-Mail Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

卒業生からのメッセージ

令和3年度、H24年度～H28年度に当所の宿泊体験活動を利用した当時中学3年生だった方（令和4年3月31日現在20～24歳）にアンケートをとりました。その中の自由記述欄に記載されていたことや、学生ボランティアとして来てくれたやまびこ卒業生へのインタビュー内容の一部を紹介します。みなさんにとって、卒業生たちの言葉が少しでも何かの力になれることを願っています。

休んで心を回復させることは必要だと思う。ただ、ある程度休んで、将来やりたいことが見つければ、それに向かって何か行動を起こすことが大事だと思う。

不登校だった当時、自分の人生は終わいだと思っていた。でも、やまびこには同じように悩む子がいて、一緒に過ごしていくうちに自分は一人じゃないと考えられるようになった。理解者ばかりで、失敗しても安心できる唯一の場所だったから、我慢することなく自分を出すことができた。今でも思い出す幸福な時間だったと思う。

不登校だった理由は今になってもはっきりとは分からないが、おそらく自分のキャパシティをオーバーしていたからだと思う。不登校だったことを後悔していないと言えば嘘になるが、これでよかったと思う。不登校のときに考えていたことや得た経験が今の自分をつくっていると考えれば、必要なことだったと思う。

不登校になって苦しい思いをしたから、他の人の気持ちかわかるし接し方もわかる。今の自分に大きな影響を与えてもらった。やまびこで出会った友だちと切磋琢磨し、支え合うことで、新しい自分を見つけることができた。

先が見えないから、このままじゃないかと不安になるけど、どうにかなる。

「なんとかなる」
「いつかなんとかなる」
「生きていたらどうにかなる」

やまびこの郷では、卒業生からのメッセージ集を廊下やロビーに掲示して、いつでも自由に見ることができます。自分と同じ思いを持っていたり、違う視点で物事を見つめたりしていることを知り、次の一歩へのエネルギーになればと思っています。

「ちょっと外に出てみても良いかな」と思った時、やまびこの郷に来てみませんか。「楽しかったな」「もう1回来たいな」と思えるようなプログラムを用意して待っています。

そのほかのアンケート結果やインタビュー内容などは、3月にパンフレットとして県内の小・中学校や関係機関に配布する予定です。やまびこの郷のHPからでもご覧になるので、ぜひご一読ください。



兵庫県立但馬やまびこの郷所長

齊藤 誠一

やまびこの郷でも、1、2月には雪が積もる日もあり、子どもたちは雪だるまを作ったり、雪投げをしたりして、但馬の冬を楽しんでいました。そんな冬も終わりに近づき、春の兆しを感じられるようになってきました。学校では卒業のシーズンに入りますが、やまびこの郷では一足早く先日中学3年生を送る卒業セレモニーを行いました。

卒業を迎えるということ



すでに卒業式を終えられた学校もあると思いますが、不登校のお子さんにとって、卒業式は心が揺れる行事でもあります。はっきりと参加、不参加を決めているお子さんもいれば、当日まで迷い続けるお子さんもいます。学校の先生も、一生に一度のことだから参加するように働きかけてくれるかもしれませんが。保護者様も、無理はさせたくない、でも参加してほしいと思うかもしれません。

では、この一生に一度（このことばは殺し文句です）の卒業式をどのように考えたらいいでしょうか。このことは、私がスクールカウンセラーをしていた時から毎年悩んできました。結論から言えば、参加できてもOK、参加できなくてもOKです。参加できても嫌な思いが残るかもしれませんし、参加できなくても他の人とは異なる生涯の節目を迎えることができるかもしれません。

卒業式の後になって、「参加すればよかった」あるいは「参加しなければよかった」と後悔が残ることもあります。まわりの人からは、「自分で選んだことだから、だれのせいでもなく、自分のせいだ」「あれほど、参加したら（あるいは、参加するのはやめたら）と伝えたのを聞かなかったのだから仕方ない」と言われるかもしれません。ただ、だれが悪い、だれが悪くないという責任探しはあまり意味があるとは思えません。

このような時は、だれもがすっきりせず、あまり気持ちがいい状態ではないと思いますが、まずはお子さんが参加、不参加を悩みながら考え、自分なりに選択できたことを評価しませんか。この選択は、学校へ行けていないがために直面したものです。葛藤を抱え、選択したけれど、やはり悔いが残ってしまったことで、自分や周囲に怒りをぶつけるかもしれませんし、自己嫌悪に陥るかもしれません。でもそうした大きな選択をしたことは非難されるものではありません。

ぜひ、本当の意味で、こういう時だからこそ、見捨てるのではなく、寄り添い、お子さんのつらい気持ちを批判せずに受けとめてください。多くのお子さんたちは卒業式という儀式に参加して、卒業するかもしれませんが、卒業式に参加しなくても、そのお子さんにとっての卒業を見届けてください。



新学年を迎えるということ

春休みは、長く、楽しいことが多い夏休み、クリスマスやお正月のある冬休みと違って、たいてい宿題もなく、あっという間に終わってしまいます。そして、新学期になれば学年が一つあがり、新しい学年に期待がふくらみますが、同時に緊張も大きくなります。とりわけ、新小学1年生や新中学1年生は新しい世界に入ること、さらに期待も緊張も高まることになります。

そうした新学期を前に、学校に行けていないお子さんたちはどのような気持ちを持つでしょうか。学年が変わることで、これまでのことをリセットできるかもしれませんが、何よりも新学年になるのだから、気持ちを切り替えて、学校へ行ってみようという暗黙の、あるいははっきりとしたメッセージを感じる人が多いと言えます。とりわけ、日本では、「新学期」「1日」「月曜」というスタートとなる区切りが好まれ、例えば「4月からは学校へ行くよ」と宣言してしまうお子さんも多いようです。ただ、3月後半になってくると、本当に学校へ行けるのだろうかという不安がだんだん高まり、気持ちが暗くなることもあります。周囲の期待を感じれば感じるほど、さらに鬱々としてきてしまいます。それでなくても、学校へ行けていないことに罪悪感や自己嫌悪をもちやすいので、「行くと宣言しておきながら行けなかったらどうしようか。でも、どうも行けそうにない」といった苦しみにも襲われることもあります。

けっして、学校へ行けること、期待をかけることを否定するわけではありませんが、4月になったからといって、急にすべてが変わるわけではありませんので、みんなが学校へ行けるわけでもありません。保護者様には、お子さんが学校に行ければ行けたことを一緒に喜んでいただきたいと思いますし、お子さんが話す楽しい新生活の様子を聞いていただきたいと思います。でも、学校へ行けなかったお子さんに対しても、行こうと思ったことやがんばろうとした気持ちに寄り添ってください。

見捨てないこと／寄り添うこと

保護者様には、お子さんがあれほど学校に行けると宣言したのに、まだ行きづらい状態にあることに複雑な思いを抱くことがあるかもしれません。でも、一番苦しんでいるのはお子さんであることを忘れないでください。この子のためにこんなにもがんばってきたのに、なぜそれに応えてくれないのだろうかと思われるかもしれません。保護者様も辛い思いをされていることと思いますし、こう思われることは否定しません。繰り返しになりますが、それでもお子さんを見捨てず、お子さんに寄り添う姿勢をもっていただけませんか。



ただ、お子さんと保護者様だけでは心を持ちきれない時には、ぜひ私どもやまびこの郷にもご相談ください。お一人で、あるいはご家族でがんばるだけではなく、利用できる援助資源を使うことも大事なことではないかと思います。

やまびこの郷も、もうすぐ春の景色に変わります。花や緑に囲まれた、豊かな自然に会いにいらしてください。



地域やまびこ教室

地域やまびこ教室では、但馬やまびこの郷のスタッフが県内5か所に出かけ、体験活動や保護者交流会を行っています。活動の様子と保護者交流会に参加された方の感想を紹介します。

第1回 県立海洋体育館

海に出てカヌー・カヤック体験をしました。潮風がとても気持ち良かったです。



第3回 国立淡路青少年交流の家

芝生広場で協力して課題をクリアするゲームを楽しんだり、浜辺で石投げや貝拾いをしてのんびりとした時間を過ごしたりしました。夜はウミホテルの観察をしました。青白い光に歓声があがりました。



第2回 県立神出学園

うさぎや犬、羊、馬などたくさんの動物とふれ合いました。餌をやって仲良しになりました。



第4回 県立山の学校

小さな椅子を作りました。慣れない工具を使っての作業でしたが、素敵な作品ができました。



第5回 県立糖野台生涯教育センター

作戦を考えたり、アイデアを出したりとみんなで力を合わせて、3つのゲームをクリアしました。



保護者の感想

- 保護者としての心構えや兄弟での接し方などいろいろな考え方を教えてもらいました。
- 焦らず、子どものスイッチが入るまで温かく見守ろうと思いました。
- 肯定的な考えをもてるようになり、気持ちになりました。



進路相談会

9月25日(日)に但馬やまびこの郷で進路相談会を行いました。不登校児童生徒を積極的に受入れている県立神出学園、県立山の学校、生野学園高等学校、吉備高原学園高等学校、日ノ本学園高等学校、クラーク記念国際高等学校三田キャンパス、第一学院高等学校養父本校、青山高等学校、F. S. 播磨西高等学院、おおぞら高等学院姫路キャンパス、三田モードビジネス専門学校が参加し、各校の説明と個別ブースに分かれての相談を行いました。児童生徒や保護者の方はとても熱心に話を聞かれていました。



兵庫県立但馬やまびこの郷保護者向け機関紙「やまびこ」web版 ●令和5年3月
●兵庫県立但馬やまびこの郷 ●〒669-5135 兵庫県朝来市山東町森字向山 3045-101
●TEL (079) 676-4724 ●FAX (079) 676-4721